

## 七夕(たなばた)

### ～ 七夕の星を見よう ～

7月7日は七夕です。年に一度「ひこぼし」と「おりひめ」が会う事を許された日ですね。ここでは、七夕にまつわるお話や星について紹介したいと思います。

#### 七夕

七夕は「たなばた」または「しちせき」と読み、願い事を書いた色とりどりの短冊や飾りを笹の葉につるし、星にお祈りをする行事です。七夕行事は万葉の時代にはすでに日本に伝わっていました。平安時代には公の行事となり、やがて一般にも広まりました。

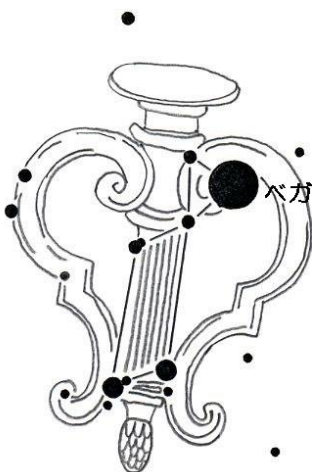


#### 七夕物語

みなさんが知っている七夕物語は、働き者の<sup>けんぎゆう</sup>牽牛と<sup>しよくじよ</sup>織女のお話でしょう。働き者だった二人は結婚しましたが、遊び暮らすようになってしまったのです。怒った織女の父である天帝は二人を天の川の兩岸に引き離し、年に一度7月7日だけ会う事を許しました。もし七夕の夜に雨が降って天の川が増水してしまったら、カササギが飛んできて翼をつらねて橋となり、二人を無事に会わせてくれるのです。

これはもともと中国で生まれたお話です。じつは、これによく似た「<sup>てんにんにようぼう</sup>天人女房」の伝説が日本各地にあります。奄美地方には「漁師ミケランと天人女房」というお話があります。また、室町時代の物語を集めた「<sup>おとぎぞうし</sup>御伽草子」の中にも「<sup>あめわかひこ</sup>天稚彦をたずねて」という七夕物語に似た話があります。さらに、北欧のフィンランドにも似たような話があります。

#### 七夕の星たち



##### <こと座>

- 音楽の名手オルフェウスが愛用していた美しい琴をあらわした星座です。白く輝く1等星のベガと4個の星で形作る小さな四辺形が目印の星座です。明るく輝く1等星のベガが「おりひめ星」です。ベガは夏に見える星座の星(恒星)の中で一番明るい星です。ベガはアラビア語の「落ちる鷲」が語源となっています。

##### <わし座>

大神ゼウスが変身した姿といわれています。天の川の東側にある3つの星が目印です。その中で明るく輝いているのが1等星のアルタイルです。このアルタイルが「彦星」です。アルタイルはアラビア語の「飛ぶ鷲」が語源となっています。

